

頭頸部がん治療と就労の 両立支援のためのシンポジウム

～患者の声の共有～

Symposium on Supporting the Balance of Head and Neck Cancer Treatment and Employment:
Sharing Voices of Patients

抄録集

開催：2025年3月1日(土)

会場：TKP 東京駅大手町カンファレンスセンター

主催  東京都

後援  Institute of
SCIENCE TOKYO

目次

開催プログラム.....	2
第一部 行政の取組	
抄録 「東京都の取組について」.....	4
田村 光平 経歴	5
第二部 大学研究者より、研究成果報告	
抄録 「アンケートから見てきた就労と治療の両立支援に必要なもの ―補綴医の立場から―」.....	8
隅田 由香 経歴	9
第三部 医療者の取組	
抄録 「下咽頭がんに対する化学放射線療法を受けた患者さんの就労両立 ～入院を繰り返しながらもテレワークを活用して仕事の継続ができた一例～」.....	12
宮田 優子 経歴	13
抄録 「がん相談支援センターにおける就労支援の具体例」.....	14
長谷川 尚子 経歴	15
抄録 「頭頸部がん患者さんの就労 相談を通じて見つけた工夫」.....	16
諸井 夏子 経歴	17
第四部 患者の声の共有	
抄録 「折角、顎癌になったのだから」.....	20
宮嶋 裕子	
抄録 「頭頸部がんになっても、その人らしい人生を歩めるように」.....	21
岡本 美砂	
抄録 「届けます！ 働く頭頸部がん患者の声」.....	22
福智 木蘭(ムーラン)	
第五部 パネルディスカッション「頭頸部がん患者との対話」	
〈司会〉去川 俊二 経歴.....	24
今橋 久美子 経歴.....	25
西脇 恵子 経歴.....	26
星 和人 経歴.....	27

頭頸部がん治療と就労の両立支援のためのシンポジウム

～患者の声の共有～

日時：2025年3月1日(土) 13:00～15:55
会場：TKP 東京駅大手町カンファレンスセンター（ホール22E）

開催プログラム

13:00	開 会	総合司会 隅田 由香 東京科学大学 特命教授、日本歯科大学生命歯学部歯科補綴学第1講座 教授 開会挨拶 田村 光平 東京都保健医療局医療政策部 医療連携・歯科担当課長
13:05	第一部	行政の取組 「東京都の取組について」田村 光平
13:15	第二部	大学研究者より、研究成果報告 「アンケートから見てきた就労と治療の両立支援に必要なもの ー補綴医の立場からー」隅田 由香
13:30	第三部	医療者の取組 「下咽頭がんに対する化学放射線療法を受けた患者さんの就労両立 ～入退院を繰り返しながらもテレワークを活用して仕事の継続ができた一例～」 宮田 優子 東京科学大学病院 緩和ケアセンター がん看護専門看護師
13:40		「がん相談支援センターにおける就労支援の具体例」 長谷川 尚子 東京都立駒込病院 患者・地域サポートセンター 認定がん専門相談員
13:50		「頭頸部がん患者さんの就労 相談を通じて見つけた工夫」 諸井 夏子 国立がん研究センター中央病院 がん相談支援センター がん相談専門職 認定がん専門相談員（社会福祉士）
14:00	休 憩	
14:10	第四部	患者の声の共有 「折角、顎癌になったのだから」 宮嶋 裕子 エッセイスト 講演家
14:20		「頭頸部がんになっても、その人らしい人生を歩めるように」 岡本 美砂 特定非営利活動法人 頭頸部がん患者友の会 理事長
14:30		「届けます！ 働く頭頸部がん患者の声」 福智 木蘭（ムーラン） 頭頸部がん患者と家族の会 Nicotto 会長
14:40	休 憩	
15:05	第五部	パネルディスカッション「頭頸部がん患者との対話」 〈司会〉去川 俊二 埼玉医科大学国際医療センター 形成外科 診療部長 今橋 久美子 国立障害者リハビリテーションセンター研究所 障害福祉研究部・室長 西脇 恵子 頭頸部がん患者友の会 会長 星 和人 東京大学大学院医学系研究科 外科学専攻 感覚・運動機能医学講座 口腔顎顔面外科学 教授 第一部から第三部の登壇者
15:55	閉 会	

第一部

行政の取組

東京都の取組について

東京都保健医療局医療政策部

医療連携・歯科担当課長

田村 光平

都民の推計がん患者数の内、36.5%が25歳から64歳の働く世代である。

がん医療の進歩等を背景に、がんを早期に発見し適切な治療を受けることで、治療後に職場に復帰する人や、身体に負担の少ない治療が可能となったことで、がんになっても治療をしながら働く人が増えてきている。

多くのがん患者やがん経験者にとって働くことは、治療費や生活費を稼ぐためだけでなく、生きがいでもあることから、就労の継続や新規就労・再就職に対する支援は、がんになっても自分らしく安心して暮らせる社会の実現には重要である。

東京都は、令和6年3月に策定した「東京都がん対策推進計画（第三次改定）」において、がん患者やその家族、がん経験者の治療と仕事の両立のため、行政・職場・医療機関及び関係団体が連携して支援することを定めている。

本講演では、東京都における治療と仕事の両立支援に関する主な取組について紹介する。



田村 光平 (タムラ コウヘイ)

東京都保健医療局医療政策部 医療連携・歯科担当課長

学 歴

- 2003年 3月 岩手医科大学歯学部 卒業
- 2007年 3月 岩手医科大学大学院歯学研究科博士課程 修了

職 歴

- 2007年 2月 秋田県健康福祉部健康推進課 主査
- 2011年 4月 岩手医科大学歯学部 非常勤講師
- 2012年 2月 奈良県立医科大学健康政策医学講座 助教
- 2013年 4月 葛飾区保健所健康推進課 医務担当係長
- 2015年 4月 東京都西多摩保健所企画調整課 課長代理
- 7月 東京都西多摩保健所企画調整課 歯科保健担当課長
- 2017年 4月 東京都多摩小平保健所企画調整課 歯科保健担当課長
- 2019年 4月 町田市保健所保健総務課 担当課長
- 2023年 4月 東京都福祉保健局医療政策部 歯科担当課長
- 2023年 7月 東京都保健医療局医療政策部 歯科担当課長
- 2024年 4月 東京都保健医療局医療政策部 医療連携・歯科担当課長

学会活動 (認定医資格) 等

社会歯科学会 理事

第二部

大学研究者より、研究成果報告

アンケートから見えてきた就労と治療の両立支援に必要なもの — 補綴医の立場から —

東京科学大学 特命教授
日本歯科大学生命歯学部歯科補綴学第1講座 教授
隅田 由香

頭頸部がんサバイバーの皆様は、再発への恐怖、咀嚼・嚥下・発音機能の低下、さらには外見の変化と日々闘っています。補綴歯科医の私は、機能や外見の改善を試み、皆様の心の平穏を少しでも保つことをお手伝いする、伴走者であることを心掛けています。しかし、患者さんの障害や外見の変化の程度、社会的環境やその捉え方も人それぞれです。そのため、社会生活の継続は、依然として難しい課題です。

今回、東京都と協力し、多くの専門家のご尽力の下、「頭頸部がん治療と就労の両立」アンケートを実施しました。本講演では、その結果を、頭頸部がんサバイバーの「声」として共有します。

「頭頸部がん治療と就労の両立」という観点から、医療者、企業、行政の各立場の課題と解決策を皆様と共に考え、アクションを起こすことで、頭頸部がんサバイバーに拘わらず、だれもが取りこぼしなく社会に受け入れられ、生きがいを感じられるダイバーシティー東京の実現への一歩になれば幸いです。



隅田 由香 (スミタ ユカ)

東京科学大学 特命教授

日本歯科大学生命歯学部歯科補綴学第1講座 教授

学 歴

- 1997年 3月 日本歯科大学歯学部卒業
- 2001年 3月 東京医科歯科大学大学院修了

職 歴

- 2001年 4月 東京医科歯科大学歯学部附属病院 医員
- 2003年 4月 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 助教
- 2005年 4月 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 講師
- 2021年 4月 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 准教授
- 2023年 5月 東京医科歯科大学 退職
- 2023年 6月 日本歯科大学附属病院 総合診療科4 教授 (現在に至る)
- 2023年 7月 東京医科歯科大学 特命教授
- 2024年 4月 日本歯科大学生命歯学部歯科補綴学第1講座 教授 (現在に至る)
- 2024年 10月 東京科学大学 特命教授 (現在に至る)

学会活動 (認定医資格) 等

- 一般社団法人 日本補綴歯科学会 理事・認定医
- 一般社団法人 日本口蓋裂学会 理事・認定師
- 公益社団法人 日本補綴歯科学会 評議員・専門医・指導医
- 一般社団法人 日本専門医機構認定 補綴歯科専門医

その他

- 一般社団法人 日本歯科医学会連合歯科専門医制度委員会 委員長

第三部

医療者の取組

下咽頭がんに対する化学放射線療法を受けた患者さんの就労両立
～入退院を繰り返しながらもテレワークを活用して仕事の継続ができた一例～

東京科学大学病院 緩和ケアセンター
がん看護専門看護師
宮田 優子

がんの診断や治療は患者さんのからだやこころに大きな影響を与えます。就労しているがん患者さんはがんという病気そのものや治療への不安を抱えながら、さらに仕事に関して「病気のことをどう職場に伝えるか」「どのくらい仕事を休むべきか」「どのように仕事を継続していくか」など、診断期・治療期・治療終了後の各段階でさまざまなお悩みをもつことがあります。今回は、下咽頭がんの診断で化学療法と放射線療法を同時に受け、治療による入退院を繰り返し副作用症状を抱えながらもお仕事を継続された患者さんの一例を通して、がん治療と仕事の両立についてみなさんと一緒に考えたいと思います。



宮田 優子 (ミヤタ ユウコ)

東京科学大学病院 緩和ケアセンター がん看護専門看護師

学 歴

2012年 3月 兵庫県立大学看護学研究科 修了

職 歴

大学院修了後 大阪国際がんセンター

2017年 4月 東京科学大学病院 病棟勤務

2018年 4月 緩和ケアセンター がん看護外来を開設

がん相談支援センターにおける就労支援の具体例

東京都立駒込病院 患者・地域サポートセンター
認定がん専門相談員
長谷川 尚子

がん患者さんの約3人に1人は20代から60代であり、生きがいや収入の確保の点で就労は重要である。がん患者さんは、疲労の対策や通院時間の確保、周囲の理解など、治療と仕事の両立に工夫をされている方が多い。その中で、頭頸部がんの患者さんは、会話や食事、飲み込み等の仕事に関係する部分にも困難を抱える場合が多く、仕事の継続や就労について、治療当初から不安を持つ方は少なくない。

がん相談支援センターは、がん診療連携拠点病院にある、誰もが無料で相談できる相談窓口である。今回は当院での就労支援の具体例を紹介する。舌がんの患者さんへの、会社とのコミュニケーションの支援事例と、永久気管孔になった咽頭がんの患者さんへの、ハローワークと連携した就職支援事例である。これらが、患者さんご家族の次の行動へのヒントになれば幸いである。患者さんには、小さなことでも不安を抱えたままにせず気軽に相談してもらいたいと思っている。



長谷川 尚子 (ハセガワ ナオコ)

東京都立駒込病院 患者・地域サポートセンター
認定がん専門相談員

学 歴

- 1992年 3月 東北大学 教育学部 教育心理学科 卒業
2013年 3月 日本福祉大学大学院 社会福祉学研究科 社会福祉学専攻 修了

職 歴

- 1993年 4月 東京都立松沢病院 医事課 主事
1996年 4月 東京都立墨東病院 医事課 医療相談係 主事
2001年 4月 東京都立大塚病院 医事課 医療相談係 主任 (2003年～ リーダー)
2006年 4月 東京都立広尾病院 医事サービス課 医療相談係 リーダー
2008年 4月 東京都立大塚病院 医事課 医療相談係 リーダー
2018年 4月 東京都立駒込病院 患者・地域サポートセンター リーダー

その他

- 社会福祉士、精神保健福祉士、公認心理師
2022年 4月 国立がん研究センター 認定がん専門相談員

頭頸部がん患者さんの就労 相談を通じて見つけた工夫

国立がん研究センター中央病院 がん相談支援センター
がん相談専門職 認定がん専門相談員
諸井 夏子

頭頸部がんの治療と就労の両立は、多くの患者さんにとって大きな課題です。当院でも、がんの罹患により、手術後のケア、体調管理、コミュニケーションの変化、アピアランスへの影響、食事のしづらさなど、生活に直結する問題が生じ、従来の働き方が難しくなったという相談を多く受けています。しかし、相談を通じて新たな働き方を見つけた患者さんもあり、発想の転換によって同じ職場で新たな業務を創り出した方、転職や制度の活用を通じて就労を継続した方など、多様な事例が見られます。

経済的負担や社会とのつながりに対する不安を軽減し、治療後の生活を支えるためには、公的制度を積極的に活用することに加え、職場と相談し、自身に適した働きやすい環境を整えることも重要です。本シンポジウムでは、皆様の今後のヒントとなることを願い、相談を通じて生まれた就労に関する創意工夫や、治療と仕事を両立するための具体的な方法をご紹介します。



諸井 夏子 (モロイ ナツコ)

国立がん研究センター中央病院 がん相談支援センター
がん相談専門職 認定がん専門相談員 (社会福祉士)

学 歴

2004年 3月 関西福祉科学大学 社会福祉学部 社会福祉学科 卒業

職 歴

2011年 2月 国立がん研究センター中央病院 がん相談支援センター がん専門相談員

第四部

患者の声の共有



宮嶋 裕子 (ミヤジマ ユウコ)
エッセイスト 講演家

折角、顎癌になったのだから

2015年10月、上顎歯肉癌のため、左奥から歯5本分の顎を切除。この2週間前には、独唱と講演の約束を果たした。伴奏した娘との最後の演奏になると思いつつながら。翌月11月には鹿児島での講演予定があり、主治医に「講演が終わってからの手術では駄目ですか？」と尋ねると即座に「駄目です」と言われ、急を要するのだと認識した。時に私は67歳であった。

手術室に向かって歩きながら、私は祈った。「神様、私を生かして下さるなら、語る顎を与えてください」と。歌のためには祈れなかった。

手術から9年半、4月には77歳になる。70歳の誕生日には、ニューヨークで娘の伴奏で10曲独唱した。私の病を知る聴衆は皆、涙を流していた。来月は函館市で教育委員会後援の講演会の予定がある。各地に講演で招かれる私を見て、担当医は顎義歯で歌え、講演できる人を知らないと言う。どの様にして今があるかをこの度、語りたいと思う。



岡本 美砂 (オカモト ミサ)

特定非営利活動法人 頭頸部がん患者友の会 理事長

頭頸部がんになっても、その人らしい人生を歩めるように

頭頸部がん患者友の会は、頭頸部がん患者さん同士の交流を目的に日本歯科大学附属病院の協力の下、2016年に設立されました。現在、3カ月に1度患者会を開催し、情報交換をおこなっています。

患者会に入会された方の多くが、罹患したショック、術後の後遺症に悩みながらも「失ったことにとらわれるのではなく、よりよく生きたい」という思いを持って会に参加しておられます。

2020年に患者会のメンバーを対象に実施したアンケートでは、患者さんの47%が仕事をしていると回答しています。

本日は、頭頸部がんになって、仕事を辞めざるを得なかった方、職場の理解を得て、継続しておられる方、双方の体験談を紹介しながら頭頸部がん患者の治療と仕事の現状についてお話いたします。その上で、患者会の「救われた命を助ける」伴走者としての役割と、企業、医療機関との連携の必要性をお伝えしようと思います。



福智 木蘭 (フクチ ムーラン)

頭頸部がん患者と家族の会 Nicotto 会長

届けます！ 働く頭頸部がん患者の声

頭頸部がんはがんの発症部位により、舌がん・咽頭がん・耳下腺がん・甲状腺がんなど多くのがん種があり、正に希少がんの集合体です。術後これまで当たり前に来ていた食べることや話すことができなくなる、又外見の変化など…QOL（生活の質）が著しく低下し、がんは治ってもその後の人生を生きる希望を見つけることが難しくなってしまいます。その大きな原因の1つには、術後職場復帰を含め就労することの難しさがあります。今回就労について発表させて頂く機会を頂き、Nicotto会員の他、現在就労なさっている頭頸部がん患者の方から、様々な出来事や問題点を頂きましたのでご紹介致します。

第五部

パネルディスカッション

「頭頸部がん患者との対話」



去川 俊二 (サルカワ シュンジ)

埼玉医科大学国際医療センター 形成外科 診療部長

学 歴

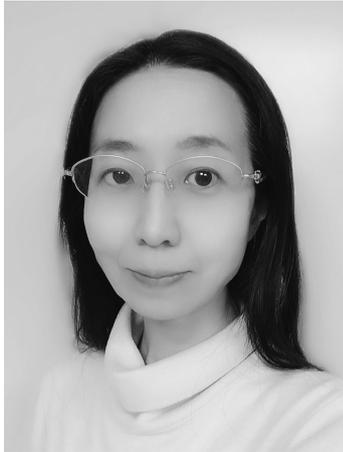
- 1998年 3月 山形大学医学部医学科 卒業
- 2007年 8月 自治医科大学 医学博士号取得

職 歴

- 1998年 5月 自治医科大学消化器・一般外科
- 2002年 4月 東京大学医学部附属病院形成外科
- 2004年 10月 国立がん研究センター形成外科
- 2006年 4月 自治医科大学形成外科
- 2010年 4月 ミュンヘン大学口腔顎顔面外科留学（1年）
- 2018年 4月 埼玉医科大学国際医療センター形成外科

学会活動（認定医資格）等

- 2006年 4月 日本形成外科 専門医
- 2017年 1月 日本頭蓋顎顔面外科学会 専門医・評議員
日本顎顔面補綴学会 評議員
日本口腔腫瘍学会 評議員



今橋 久美子 (イマハシ クミコ)

国立障害者リハビリテーションセンター研究所
障害福祉研究部・室長

学 歴

- 1995年 3月 東京大学医学部保健学科 卒業
- 2001年 8月 University of Northern Colorado Psychology M.A. 修了
- 2008年 3月 東京大学大学院医学系研究科リハビリテーション医学専攻博士課程 修了
- 2012年 3月 東京豊島IT医療福祉専門学校 精神保健福祉士コース 修了

職 歴

- 1995年 4月 東京大学医学部附属病院 看護師
- 1997年 4月 浜松医科大学医学部看護学科 助手
- 2012年 8月 国立障害者リハビリテーションセンター研究所 研究員
- 2021年 4月 国立障害者リハビリテーションセンター研究所 室長

学会活動（認定医資格）等

- 日本高次脳機能学会 代議員
- 日本リハビリテーション連携科学学会



西脇 恵子 (ニシワキ ケイコ)

頭頸部がん患者友の会 会長

学 歴

- 1983年 3月 日本女子大学文学部卒業
- 1984年 3月 国立身体障害者リハビリテーションセンター学院 聴能言語専門職員養成課程卒業
- 2009年 3月 国際医療福祉大学大学院 言語聴覚病理学専攻 修了

職 歴

- 1984年 4月 医療財団河北総合病院 リハビリテーション科
- 1989年 4月 墨田区福祉事業団すみだ福祉保健センター リハビリテーション課
- 2002年 4月 日本歯科大学附属病院 言語聴覚士室 (現在)
- 上智大学大学院 非常勤講師
- 東京工科大学 臨床教授

学会活動 (認定医資格) 等

- 日本言語聴覚士学会 評議員
- 日本嚥下医学会 評議員
- 日本老年歯科医学会 評議員
- 日本顎顔面補綴学会 理事
- 日本摂食嚥下リハビリテーション学会 評議員

その他

- 一般社団法人 東京都言語聴覚士会 代表理事
- NPO法人 言語障害者の社会参加のためのパートナーの会和音 理事



星 和人 (ホシ カズト)

東京大学大学院医学系研究科 外科学専攻
感覚・運動機能医学講座 口腔顎顔面外科学 教授

学 歴

- 平成 3年 3月 東京大学医学部医学科 卒業
平成 10年 3月 東京大学大学院医学系研究科 修了

職 歴

- 平成 28年 11月 1日 東京大学医学部附属病院
口腔顎顔面外科・矯正歯科 口唇口蓋裂センター
センター長
- 平成 29年 7月 1日 東京大学医学部附属病院
口腔顎顔面外科・矯正歯科 診療科長
ティッシュエンジニアリング部 部長
- 平成 30年 1月 1日 外科学専攻 感覚・運動機能医学講座 口腔外科学（現口腔顎顔面外科学）
教授

学会活動（認定医資格）等

日本整形外科学会専門医、日本口腔外科学会指導医、日本口腔外科学会専門医、
日本口腔科学会指導医、日本再生医療学会再生医療認定医、
日本口腔インプラント学会指導医、日本口腔外科学会（理事）、
日本口腔科学会（副理事長）、日本口蓋裂学会（理事）、日本口腔ケア学会（副理事長）、
日本再生医療学会（理事）

International Association of Oral and Maxillofacial Surgeons、International Cleft Lip and Palate
Foundation (Board of Trustee)、International Association of Oral Care (President)、Tissue
Engineering International & Regenerative Medicine Society、Tissue Engineering Society
International、International Cartilage Repair Society

開催後アンケートのお願い

この度は、「頭頸部がん治療と就労の両立支援のためのシンポジウム～患者の
声の共有～」にご参加いただき、誠にありがとうございました。
今後の施策や取り組みの参考とさせていただきます。アンケートへのご協力をお願い
申し上げます。

【アンケート提出締切】

2025年3月5日（水）正午

お忙しいところ恐れ入りますが、何卒ご協力のほど、よろしくお願いいたします。



こちらからアクセスをお願いします。

抄録集

発行：2025年3月1日

発行所：東京都保健医療局

編集：隅田由香

編集所：東京科学大学

運営：メディカルクオール株式会社

デザイン：大江敏之

印刷：株式会社アドイン

手話通訳：株式会社ミライロ

会場：TKP 東京駅大手町カンファレンスセンター